The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	停年退官を迎えて
Author(s)	加賀谷, 寛
Citation	大阪外国語大学アジア太平洋論叢. 1996, 6, p. 315-321
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99732
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

停年退官を迎えて

加賀谷　寛

本学年は私が停年を迎える最後の年であり、アジア太平洋研究会からの厚意ある御申出で、ここに乏しい研究歴を回顧させていただく機会を与えられた。

私が現代アジア研究を始めた頃は1950年代で、バンドン会議に見られたように反帝国主義の民族運動が昂揚していた時期で、現代アジアの民族運動が世界史を切り拓くように感じられた。このようななかで東大大学院修士課程在学の頃、同じく院生の石田保昭氏（東洋史）を中心に『インド・イラン評論』を発行し、勉強会を始めた。これには法律や経済の研究者も加わって、今にして思えば地域研究の原型に近い研究会であった。これには現代中国の研究者も関心をもって下さった。

私自身は、現代インド・パキスタンのイスラム教徒の思想史を鋭く社会的に分析したW.C.スミスや、現代イスラムに対する同情的批判を西欧側で提起したH.A.R.ギブの著書に学ぶところが大きかった。

こうして1956年に東大東洋文化研究助手に採用された。それまでイスラムや中東（西アジア）の領域が日本の学問分野で欠落していたため、若手を養成しようと研究所の先生方が考えておられたことがうかがえる。同年12月に、イラン政府奨学生制度によりテヘラン大学に留学した。イランは1950年代はじめに石油国有化運動が起こり民族運動が高まったが、その挫折後間もない時期だった。為替レートが１ドル＝360円の頃だったが、ペルシア語出版物を出来るだけ入手し、地方旅行を広く行った。この留学でペルシア語文献を基に現代イラン研究を始めることが出来た。それは「特異な」思想家A.カスラヴィーの思想の研究やイラン立

憲革命史研究に連なって行った。

この東洋文化研究所の5年間は自由な研究生活に恵まれた。私と同世代の現代インドや現代アラブの研究者も相次いで同じ研究所の助手に入って来た。

国会周辺の安保反対デモを経験した直後、大阪外大の印度語学科で停年を迎えられた故沢英三先生（当時は停年が現在より長かった）の後任にウルドゥー語担当の講師に採用された。同年入試が済んでからペルシア語学科が新設され、その授業の一部を私も手伝った。

1960年代になってわが国でも現代アジア研究が本格的に始動し、アジア経済研究所（東畑初代所長）、東京外大A.A.研究所（岡初代所長）が発足し、若手研究者がこの中で活動し始めた。部外者の私も研究プロジェクトに加えていただいた。本学でも伝統ある語学中心主義だけでなく、アジア地域の文化や政治経済を研究・教育する必要があると私は考えていた。ちょうどこの頃外部から大阪市大の尾崎彦朔先生、同古賀正則氏が本学に非常勤として見えられており、本学の研究会にも応援いただいた。私どもの研究会は未組織だったが、今日の本学のアジア太平洋研究会の源流に連なっているものと思う。同時に我われの先駆的地域研究が微力ながら本学の地域文化学科の改革構想となって、結実したものと考えられる。地域研究をもって「現地の言語の学習と一般理論の修得との結合」（ギブ）という要約に私は今も賛成であり、さらにアジア諸地域を外部（近代西欧）からの視点からだけでなく、それら地域の文化や社会を先ず内部からとらえる姿勢が何より必要であると考えるものである。幸いに本学のアジア太平洋研究会はこのような本来の地域研究を目指して来たといえるであろう。

最後に、拙いながら私の研究分野は四つに分けられる。(付。著作目録)

（1）ウルドゥー語学・文学研究

（2）インド・パキスタンのムスリム近現代思想史研究

（3）イラン現代史研究

（4）イスラム研究

加賀谷寛教授略歴

1930年　8月8日　東京都に生まれる。
1951年　3月25日　東京外事専門学校卒業
1954年　3月16日　東京外国語大学インド語学科卒業
1956年　3月28日　東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了
1956年　4月1日　東京大学東洋文化研究所助手に採用
1961年　4月1日　大阪外国語大学講師に出向
1964年　4月1日　大阪外国語大学助教授に昇任
1969年　7月10日　大阪外国語大学大学院外国語学研究科担当
1970年　2月1日　大阪外国語大学教授に昇任
1995年　4月1日　大阪外国語大学外国語学部地域文化学科長を併任
1996年　3月31日　大阪外国語大学を停年退官
1996年　4月1日　大阪外国語大学名誉教授

主要著作目録・加入学会

1．単著	発行年	発行所
イラン現代史	昭和50年	近藤出版社
イスラム思想	昭和61年	大阪書籍
2．共著	**発行年**	**発行所**
アラブのナショナリズム	昭和36年	弘文堂
現代パキスタンの研究1947～71	昭和48年	アジア経済研究所
南アジア現代史Ⅱ－パキスタン・バングラデシュ	昭和52年	山川出版社
宗教と歴史	昭和52年	山本書店
中東現代史Ⅰ－トルコ・イラン・アフガニスタン	昭和57年	山川出版社
神々の相克	昭和57年	新泉社
人々のイスラーム	昭和62年	日本放送出版協会
もっと知りたいパキスタン	昭和62年	弘文堂

パキスタンにおける政治と権力	平成４年	アジア経済研究所

３．翻訳	発行年	発行所
イスラム文明（H.A.R.ギブ著）	昭和42年	紀伊国屋書店
パキスタンの再建（アイユーブ・カーン著、共訳）	昭和43年	オックスフォード大学出版局
イスラム文明史（H.A.R.ギブ著、共訳）	昭和43年	みすず書房
ワリーウッラー『フッジャトゥッラーフ・ル・バーリガ』前文・訳（付解説）	昭和46年	『大阪外国語大学学報』第25号
近代ウルドゥー文学史（S.R.スィッディーキー著）	昭和54年	東海大学出版会
パキスタン－世界の歴史教科書（A.ハミード、A.G.チョウダリー著、共訳）	昭和60年	ほるぷ出版

４．論文	発行年	掲載誌等
近代におけるイスラーム思想の展開とその現状	昭和33年	『理想』第９号
現代イランにおけるイスラム近代主義の発展	昭和34年	『東洋文化研究所紀要』第16冊
西アジアにおけるナショナリズム	昭和35年	『思想』1960年12月号
パキスタン国家形成におけるイスラムの役割	昭和36年	『東洋文化』第29号
ペルシャ語によるイラン立憲革命史文献	昭和36年	『西南アジア研究』第９号
イラン立憲革命の性格について	昭和37年	『東洋文化研究所紀要』第26冊
近代におけるイスラムについて	昭和37年	『宗教研究』第171号
インド・パキスタンにおけるムスリムの現代思想史(1)	昭和38年	『大阪外国語大学学報』第31号

イラン立憲革命の性格について（後編）	昭和39年	『東洋文化研究所紀要』第39冊
戦後イラン出版のシーア・イスラム文献について	昭和39年	アジア・アフリカ文献調査委員会、第13冊
イラン種族社会の近代的発展	昭和39年	『アジア経済』第5巻第5号
近代イスラムのコーラン解釈	昭和39年	『オリエント』第7巻3・4号
近代イスラムの一評価	昭和40年	『東洋文化』第38号
Islam as an Ideological Force	昭和41年	*Developing Economies,* Vol.IV,No.1.
近代イラン権利闘争史と立憲革命	昭和41年	『アジアの革命と法』（仁井田博士追悼論文集第2巻）
現代イスラムの主体変革の基本動向	昭和41年	『東洋研究』第14号
後期イスラムの二重構造	昭和42年	『オリエント』第9巻2・3号
18世紀インド・イスラムの宗教・社会構造	昭和42年	『西南アジア研究』第19号
イスラム史観の近代化	昭和42年	『アジア研究』第14巻第3号
イスラムの宗教構造	昭和42年	『東洋学術研究』第6巻第8号

Changing Muslim Views of Islamic History and Modernisation	昭和43年	*Developing Economies,* Vol.VI, No.2.
イランにおけるレザー・シャー政権の成立	昭和45年	『岩波講座世界歴史』第25巻
十九世紀イランの民族運動	昭和46年	『岩波講座世界歴史』第21巻
近代イラン・ムスリム社会の宗派的二分化対抗	昭和56年	『宗教と社会』(小口偉一教授古稀記念論集)
19世紀初頭インド・イスラムの聖者崇拝批判	昭和56年	『オリエント』第24巻第1号
イスラム都市内部の非ムスリム社会ー近代イランの場合	昭和57年	『現代アジア社会の研究』(大阪外国語大学アジア研究会)
ハーリー作『イスラムの盛衰』の本文(ローマ字訳)訳注(その一)	昭和57年	『大阪外国語大学学報』第60号
イスラム世界と政治的アイデンティティー	昭和58年	『現代アジア政治における地域と民衆』(大阪外国語大学アジア研究会)
イラン民族運動の発展	昭和61年	『オリエント史講座』(学生社)第6巻
19世紀初頭南アジアから海路による集団的メッカ巡礼	昭和63年	『大阪外国語大学学報』第76号

革命状況と説教者	平成３年	『オリエント』第33巻第２号
A Socio-Historical Study of the Iranian Constitutional Revolution	平成４年	*Orient*,XXVIII
Aubash and Their Role in Modern Iran	平成７年	*Orient*,XXX, XXXI

５．学会活動

アジア政経学会

日本オリエント学会

日本宗教学会

日本南アジア学会